

令和7年度 第2回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和7年7月3日（木）午後2時から3時40分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 委員：落合会長、伊藤副会長、阿部委員、石井委員、平向委員、堀内委員、渡辺委員、内田委員、三田地委員、計9名（欠席3名）
事務局：松本中央図書館長、岡村（花小金井図書館長）、大竹（小川西町図書館長）、菅家（中央図書館サービス担当係長）、田中（中央図書館資料担当係長）、小林（中央図書館歴史公文書・調査担当係長）、平城（大沼図書館長）、計7名
- 4 傍 聴 なし
- 5 配付資料
 - ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定（資料No.1）
 - ・令和6年度小平市立図書館事業統計（資料No.2）
- 6 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館運営状況について
 - ・図書館行事等の報告と今後の予定について（資料No.1）
 - ・司書講習への職員の派遣について
 - ② 令和6年度小平市立図書館事業統計について（資料No.2）
 - ③ 市議会6月定例会について

報告事項についての意見・質疑応答

- 委 員：資料No.2の40ページに記載のなかまちテラスティーンズ委員会について、委員会のメンバーは、どの学校からの参加者か。
- 事 務 局：令和6年度は公募で10名の中学生が集まり、うち9名が参加することとなった。平成30年度の実施当初は、なかまちテラスの近隣の中学校からの参加のみであったが、近年は市内のいくつかの中学校から集まっている。
- 委 員：ティーンズ委員会に関する中学生や高校生への広報はどのように行っているのか。
- 事 務 局：市報とホームページでの広報に加え、各学校へチラシやポスターでの周知を依頼している。また、学校司書や教員から声を掛けることもあると聞いている。
- 委 員：デジタルを用いた広報も検討してもらいたい。ティーンズ委員会を実施しているなかまちテラスは東寄りの地域にあるので、新しく建設される小川駅西口複合施設などの西寄り

の地域においても実施できると良いと考える。

事務局：小川駅西口複合施設については、ティーンズ委員会という事業も選択肢に含めて、様々な意見を取り入れながら、学生が集まれる場所づくりを研究・検討したい。

委員：昨年度の市報では、ティーンズ委員会のメンバーなどが写真付きで大きく掲載されており、参加に至る経緯なども記載されていて、良い広報の仕方だと思った。

事務局：広報は重要だと捉えており、市報での広報に加えて、先ほど委員から指摘のあったSNSなどのデジタル媒体も活用して、対象世代を意識した広報を行っていききたい。

委員：資料No.1に記載の8月13日に実施した中学生・高校生向け「図書館ボランティア体験」について、20名を超える応募があったとのことだが、8名の定員をもっと増やすことはできなかったのか。

事務局：応募者全員に参加してもらいたかったが、参加者には職員が付き添ってカウンター業務などの多くの作業を行ってもらうため、現状の受入れ体制では8名が限度である。

委員：資料No.2の1ページに記載の登録率について、約7割という登録率は非常に高い数値と捉えている。この内、図書貸出を複数回利用している利用者はどれほどいるのか。それが分析できればリピーターの増加に繋がる。市として、リピーターを増やしたい意向で良いか。

事務局：増やしたいと考えている。特に若い世代のリピーターの増加に繋げて、若者の読書離れという社会情勢に対する対策をしたいと考えている。

委員：初めて図書館を利用しようと思ったきっかけや、リピートしようと思った理由などの情報があれば、対策に有用だと考える。

事務局：図書館を利用する人のなかには、図書を借りずに館内で閲覧する方もおり、統計に出ない場合がある。また、図書を借りる利用者についても、個人情報の取り扱いの関係等で情報を残せない場合や、システムデータの保存年限の関係で残せない場合もある。

委員：資料No.2の14ページ記載の相互貸借について、八王子市への貸出件数が突出しているのはなぜか。

事務局：人口が多いというのに加えて、大学が多く、研究者や学生による利用が多いためであると推測している。小平市は歴史資料等が充実しているということもあり、貸出件数が多いのではないかと考えている。

委員：11ページ記載の団体貸出について、小平第五中学校と花小金井南中からの利用が全くない理由は、アプローチはしているのか。

事務局：主に調べ学習のために貸し出されるものであるが、年度ごとの教員や学校司書の方針、生徒の利用の仕方等で変動すると聞いている。また、電子端末の利用に切り替わっているという話も聞いている。学校の求めに応じて本を貸し出せる体制を引き続き整えたい。

委員：本来的には、生徒が自分で図書館に行って探すのが望ましい。よって、貸出件数が多いから良いという訳でもないと思う。

委員：もしかしたら小平第五中学校と花小金井南中学校の生徒は図書館に行っているのかもしれない。学校と図書館の距離も貸出件数に関係があるのかもしれない。このように統計資料の数字に意味付けをしていくことが重要である。

委員：学校図書館の図書が充実していること等も大切であると考え。

会長：事業統計はずっと同じ集計の仕方をしているが、目的を持つことで、別の集計の仕方を検討するのも良いと考える。

委員：43 ページに記載のボランティア実績について、ボランティアは活動ごとに募集しているのか、どういう時に募集するのか、一般ボランティアはどのような活動を行うのか等を知りたい。

事務局：ボランティアは登録制であり、ボランティアの内容ごとに登録してもらっている。人数が不足した際に募集を行うが、直近では宅配ボランティアを市報とホームページで広報して募集した。事業統計に記載の人数は活動の延べ人数であり、登録人数は足りていない状況である。一般ボランティアの方には本の修理やチラシの仕分け、架、整架などを行ってもらっている。

委員：市としては、ボランティアを増やしたいのか。

事務局：市民共同の一環でもあるので歓迎している。図書館に慣れ親しんでもらいたい。

委員：ボランティアの人には、イベントに優先的に参加できるなどの特典があると良いと考える。

事務局：ボランティアは無償が原則ではあるが、さまざまなニーズや関わり方があるので、より多くのボランティア活動をしてもらえるような体制づくりが必要と考える。

委員：学校の生徒にも図書館の仕事に興味を持っているこどもはいるので、ボランティアの情報を学校にも提供してもらえたら良いと考える。

事務局：図書館ボランティア体験は毎年人気の事業のため、なるべく良い方法で学校と連携ができるように研究したい。

委員：以前一般ボランティアに参加して本の修理などを行ったことがある。その時の体験を踏まえて思うこととして、ボランティア同士や職員との交流があると、やりがいを感じられ、発展をしていくのではないかと。

委員：絵本でつながるボランティアに関わったことがあるが、募集した当初は多くの参加があったのに少しずつ減っていった。図書館側がボランティアに対して何をしてもらいたいかを積極的に伝えた方が良いと感じている。

委員：ボランティアは立ち上げ時は大変だが、徐々にボランティアの人だけで活動を行えるようになる。ボランティア同士のつながりがあると、辞める人は減ると考える。

事務局：ボランティアの在り方はさまざまであり、人とのつながりを求める方や技術を求める方等がいるので、参加者が満足感を得られるように研究していきたい。

会長：一年に一回でもボランティア全員の顔合わせを行うことが必要と考える。

委員：オンラインを活用すると良いのではないかと。

事務局：顔が見える関係は必要と考える。内容を精査して行える範囲で研究していきたい。

委員：交流を行いたいボランティアの方もいると思うので、グループごとの懇談会だけでも行って、活動発表等ができると良いと考える。

事務局：ボランティアの方の意向等について、機会があれば確認していきたい。

委員：先日、地域学習支援課が主催した学校図書館ボランティア交流会に参加した。6年ぶりの

開催であったが、40 人程集まって研修と交流を行った。このような交流会があれば良いと考える。

委 員：以前参加したことがあるが、各学校同士の情報交換ができて有意義な会であった。

事 務 局：研修と合わせて交流会を行うという方法は可能であると考ええる。

会 長：図書館友の会で司会等の支援は行なえるが、募集等は市で行ってもらいたい。

事 務 局：会場などを含めて、どのような方法が可能なのか考えたい。

委 員：ボランティアの活動は、ボランティアの方がやりたいことを行うのではなく、市が行って
もらいたいことに沿って行うという考えで良いと考える。

事 務 局：市が募集を行うため、もちろん好きなように活動できるということではないが、それぞれの
得意分野に沿って愛着を持ってもらうことが大事であると考ええる。

委 員：全蔵書の中で一度も貸し出されたことのない本は何冊程あるのか。

事 務 局：統計データはないが、最近購入した図書にはないと考えている。古い図書の中には存在し
ている可能性がある。

委 員：貸し出されたことのない図書があるのであれば、今後購入する図書の参考等にするため
に、そのデータを確認しておいた方がよいと考える。

（２）協議事項

なし

（３）その他

なし

（次回、令和 7 年 9 月 25 日（木）午後 2 時から開催予定）